

島根大学ミュージアム年報

Annual Report of Shimane University Museum

平成22年度

2011.4

島根大学ミュージアム

Shimane University Museum

序 文

このたび、鳥根大学ミュージアムは、創設5周年を迎えることができました。5年目となる平成22年度も引き続き、展示・普及啓発事業から学生教育、構内の埋蔵文化財行政にいたるまで、多種多様な業務の遂行に邁進してまいりました。

まず、平成22年度も、月1回の連続市民講座、子供向け教室、フィールド体験ツアー、キャンパスツアー、公開授業、常設展示、企画展示など、本学の標本・資料や研究成果を活用した様々な普及啓発活動を行い、市民の方々にPRすることができました。

また、平成21年10月、修復工事が完了し、サテライトミュージアムとして市内にオープンした鳥根大学旧奥谷宿舎（旧制松江高等学校外国人宿舎）は、開館2年目を迎え、運営のほうも何とか軌道に乗せることができました。平成22年度は、学内外団体との共催による活発な展示会などを開催することができ、幸いにも前年度に引き続いて多くの来館者にご見学いただきました。

また、学生教育の面では、各学部の学芸員資格取得に関わる授業について、ミュージアムが全学的見地から一元的に開講しているところです。平成24年度以降は、学芸員資格取得に必要な授業科目が大幅に増加する予定であり、これまで以上にミュージアムの学生教育に対する責任が重くなる見込みです。上記のミュージアム諸活動をこうした授業プログラムともリンクさせながら、実践的な博物館学教育を推進していきたいと考えています。

「人とともに・地域とともに」を標榜する鳥根大学が、長期戦略の展望にたちながら、このキャッチフレーズを実現していく際の具体的装置として、大学ミュージアムは無くてはならないものであると考えております。

少数の人員で実務にあたっている小さな組織ではありますが、ミュージアム・ミッションを常に再確認しつつ、限られた人的・物的資源を有効に投入しながら、諸業務に取り組んでいく所存です。今後とも、学内外の皆様からのご支援ご協力を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

平成23年4月

鳥根大学ミュージアム館長 林 正 久

目 次

I	規則・組織	
1	規則	1
	(1) 島根大学ミュージアム規則	
	(2) 島根大学ミュージアム管理運営委員会規則	
	(3) 普及啓発専門委員会要項	
	(4) 島根大学旧奥谷宿舎活用専門委員会要項	
	(5) 埋蔵文化財専門委員会要項	
	(6) 島根大学構内における埋蔵文化財の取扱いに係る判断基準	
2	組織	8
	(1) 組織構成と構成員	
	(2) 管理運営委員会	
	(3) 専門委員会	
II	活動報告	
1	主な活動日誌抄	10
2	標本資料類などの収集、整理・保管、調査研究	13
	(1) 標本資料類などの収集	
	(2) 標本資料類などの整理・保管	
	(3) 標本資料類などの調査研究	
3	標本資料類などに関わる教育、普及啓発	14
	(1) 入館者数	
	(2) 常設展示	
	(3) 企画展示	
	(4) 展示案内・キャンパスツアーなど	
	(5) 公開講座・フィールド体験ツアーなど	
	(6) 講義（島大ミュージアム学）	
4	博物館学教育	25
5	標本資料類などに関わる情報発信、地域貢献	27
	(1) 刊行物の発行・配布	
	(2) インターネット	
	(3) データベース	
	(4) 地域貢献活動	
6	本学構内の埋蔵文化財の取扱い	28
	(1) 学寮新営工事に伴う試掘調査	
	(2) 工事立会	
	(3) 島根大学構内遺跡第14・15・16・17・18次発掘調査の整理・研究	
	(4) 島根大学埋蔵文化財調査研究報告書の刊行	
7	島根大学旧奥谷宿舎（サテライトミュージアム）の活用	31
	(1) 島根大学旧奥谷宿舎（サテライトミュージアム）の活用状況	
	(2) 島根大学旧奥谷宿舎見学者アンケートの結果	
8	ミュージアム教員の活動記録	34

I 規則・組織

1 規則

(1) 島根大学ミュージアム規則

(平成18年島大規則第9号)

(平成18年3月8日制定)

[平成19年2月28日一部改正]

[平成21年6月25日一部改正]

(趣旨)

第1条 この規則は、島根大学ミュージアム（以下「ミュージアム」という。）の組織及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(目的)

第2条 ミュージアムは、学内共同教育研究施設として、島根大学（以下「本学」という。）における標本資料類などを大学所有の有形知的財産として位置づけ、それらを収集、整理・保管及び調査研究をしたうえで、展示公開などによる教育、普及啓発、情報発信の促進及び地域貢献などを行うことを目的とする。

(業務)

第3条 ミュージアムは、次の各号に掲げる業務を行う。

- 一 標本資料類などの収集、整理・保管及び調査研究に関すること。
- 二 標本資料類などに関わる教育及び普及啓発に関すること。
- 三 博物館学教育に関すること。
- 四 標本資料類などに関わる情報発信の促進及び地域貢献に関すること。
- 五 本学構内の埋蔵文化財の取扱いに関すること。
- 六 その他ミュージアムの目的を達成するために必要な業務

(組織)

第4条 ミュージアムに、次の各号に掲げる職員を置く。

- 一 館長
- 二 副館長
- 三 専任教員
- 四 その他必要な職員

2 ミュージアムに兼任研究員及び学外協力研究員を置くことができる。

(館長)

第5条 館長の選考は、本学の専任教授のうちから、第10条に規定する島根大学ミュージアム管理運営委員会の発議に基づき、教育研究評議会の議を経て、学長が行う。

2 館長の任期は、2年とし、再任を妨げない。

3 館長は、ミュージアムの業務を掌理する。

(副館長)

第6条 副館長の選考は、本学の専任教員のうちから、第10条に規定する島根大学ミュージアム管理運営委員会の推薦に基づき、学長が行う。

2 副館長の任期は、2年とし、再任を妨げない。

3 副館長は、館長を補佐し、ミュージアムの業務を整理する。

(専任教員)

第7条 専任教員は、第3条に掲げられた事項に関し専門的知識又は相当な経験を有する者とする。

2 専任教員の選考は、教育研究評議会の議を経て学長が行う。

(兼任研究員)

第8条 兼任研究員は、ミュージアムの業務に関して専門的知識を有する者で、全学的立場からミュージアムの業務を推進する者とする。

2 兼任研究員は、本学専任教員のうちから、館長の推薦に基づき、学長が任命する。

3 館長は、前項の推薦に当たっては、当該教員が所属する部局等の長の同意を得るとともに、第10条に規定する島根大学ミュージアム管理運営委員会の議を経なければならない。

4 兼任研究員の任期は、2年とし、再任を妨げない。

(学外協力研究員)

第9条 学外協力研究員は、ミュージアムの業務に関して専門的知識を有する学外の者で、ミュージアムの業務推進に協力する者とする。

2 学外協力研究員は、第10条に規定する島根大学ミュージアム管理運営委員会の議を経て、館長が委嘱する。

3 学外協力研究員の任期は、2年とし、再任を妨げない。

(管理運営委員会)

第10条 ミュージアムに関する基本的事項を審議するため、島根大学ミュージアム管理運営委員会(以下「管理運営委員会」という。)を置く。

2 管理運営委員会に関し必要な事項は、別に定める。

(事務)

第11条 ミュージアムの事務は、財務部施設企画課の協力を得て、学術国際部研究協力課において処理する。

(雑則)

第12条 この規則に定めるもののほか、ミュージアムに関し必要な事項は、別に定める。

附 則

1 この規則は、平成18年4月1日から施行する。

2 島根大学埋蔵文化財調査研究センター規則(平成16年島大規則第162号)は、廃止する。

附 則

この規則は、平成19年10月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成21年7月1日から施行する。

(2) 島根大学ミュージアム管理運営委員会規則

(平成18年島大規則第10号)

(平成18年3月8日制定)

[平成19年2月28日一部改正]

[平成21年6月25日一部改正]

(趣旨)

第1条 この規則は、島根大学ミュージアム規則(平成18年島大規則第9号)第10条第2項の規定に基づき、島根大学ミュージアム管理運営委員会(以下「管理運営委員会」という。)の組織及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(審議事項)

第2条 管理運営委員会は、島根大学ミュージアム(以下「ミュージアム」という。)に関し、次の各号に掲げる事項を審議する。

- 一 管理運営の基本方針及び事業計画に関すること。
- 二 本学構内の埋蔵文化財の取扱いに関すること。
- 三 館長及び副館長の推薦に関すること。
- 四 教員の人事(資格審査を含む。)に関すること。
- 五 予算及び決算に関すること。

六 その他ミュージアムの管理運営に関すること。

(組織)

第3条 管理運営委員会は、次の各号に掲げる委員で組織する。

- 一 館長
- 二 副館長
- 三 ミュージアムの専任教員
- 四 各学部教員代表 各1名
- 五 附属図書館長
- 六 総合情報処理センター長
- 七 生涯学習教育研究センター長

2 第1項第4号の委員は、学部長の申出に基づき、学長が任命する。

3 第1項第4号の委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

4 管理運営委員会に委員長を置き、委員長は館長をもって充てる。

(会議)

第4条 管理運営委員会は、委員長が招集し、議長は委員長をもって充てる。

2 委員長に事故があるときは、副館長がその職務を代理する。

3 管理運営委員会は、委員の3分の2以上が出席しなければ会議を開くことができない。

4 管理運営委員会は、出席者の過半数をもって議決し、可否同数のときは議長の決するところによる。

5 管理運営委員会が必要と認めるときは、管理運営委員会に委員以外の者の出席を求め、その意見を聴くことができる。

(専門委員会)

第5条 管理運営委員会に専門的事項を審議するため、必要に応じて、専門委員会を置くことができる。

2 専門委員会に関し必要な事項は、管理運営委員会が別に定める。

(事務)

第6条 管理運営委員会の事務は、財務部施設企画課の協力を得て、学術国際部研究協力課において処理する。

附 則

この規則は、平成18年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成19年10月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成21年7月1日から施行する。

(3) 普及啓発専門委員会要項

平成21年6月11日

島根大学ミュージアム管理運営委員会決定

(趣旨)

第1 この要項は、島根大学ミュージアム管理運営委員会規則（平成18年島大規則第10号）第5条第2項の規定に基づき、島根大学ミュージアム普及啓発専門委員会（以下「専門委員会」という。）の組織及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(審議事項)

第2 専門委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- 一 シンポジウム、研究会、公開講座等の企画及び実施
- 二 ニュースレター、広報等の編集・刊行

三 その他普及啓発に関する事項

(組織)

第3 専門委員会は、次の各号に掲げる委員で組織する。

一 館長

二 副館長

三 ミュージアムの専任教員

四 ミュージアム兼任研究員・学外協力研究員のうちから若干名

2 第1項第4号の委員は、館長の推薦に基づき、学長が任命する。

3 第1項第4号の委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。

4 専門委員会に委員長を置き、委員長は館長をもって充てる。

(会議)

第4 専門委員会は、委員長が招集し、議長は委員長をもって充てる。

2 委員長に事故があるときは、副館長がその職務を代理する。

附 則

1 この要項は、平成21年6月11日から実施する。

2 島根大学ミュージアム専門委員会内規（平成18年4月28日制定）は、廃止する。

(4) 島根大学旧奥谷宿舎活用専門委員会要項

平成21年6月11日

島根大学ミュージアム管理運営委員会決定

(趣旨)

第1 この要項は、島根大学ミュージアム管理運営委員会規則（平成18年島大規則第10号）第5条第2項の規定に基づき、島根大学旧奥谷宿舎活用専門委員会（以下「専門委員会」という。）の組織及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(審議事項)

第2 専門委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

一 島根大学旧奥谷宿舎の運営に係る基本計画に関すること。

二 島根大学旧奥谷宿舎を利用した活動等の企画及び実施

三 その他島根大学旧奥谷宿舎に関する事項

(組織)

第3 専門委員会は、次の各号に掲げる委員で組織する。

一 館長

二 副館長

三 ミュージアムの専任教員

四 ミュージアム兼任研究員・学外協力研究員のうちから若干名

2 第1項第4号の委員は、館長の推薦に基づき、学長が任命する。

3 第1項第4号の委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。

4 専門委員会に委員長を置き、委員長は館長をもって充てる。

(会議)

第4 専門委員会は、委員長が招集し、議長は委員長をもって充てる。

2 委員長に事故があるときは、副館長がその職務を代理する。

附 則

この要項は、平成21年6月11日から実施する。

(5) 埋蔵文化財専門委員会要項

平成21年6月11日
島根大学ミュージアム管理運営委員会決定

(趣旨)

第1 この要項は、島根大学ミュージアム管理運営委員会規則（平成18年島大規則第10号）第5条第2項の規定に基づき、島根大学ミュージアム埋蔵文化財専門委員会（以下「専門委員会」という。）の組織及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(審議事項)

第2 専門委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- 一 埋蔵文化財の発掘調査・試掘調査・確認調査・工事立会に係る基本計画に関すること。
- 二 埋蔵文化財の修復保存に係る基本計画に関すること。
- 三 その他埋蔵文化財に関する事項

(組織)

第3 専門委員会は、次の各号に掲げる委員で組織する。

- 一 館長
- 二 副館長
- 三 ミュージアムの専任教員
- 四 ミュージアム兼任研究員・学外協力研究員のうちから若干名

2 第1項第4号の委員は、館長の推薦に基づき、学長が任命する。

3 第1項第4号の委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。

4 委員会に委員長を置き、委員長は館長をもって充てる。

(会議)

第4 専門委員会は、委員長が招集し、議長は委員長をもって充てる。

2 委員長に事故があるときは、副館長がその職務を代理する。

附 則

1 この要項は、平成21年6月11日から実施する。

2 島根大学ミュージアム専門委員会内規（平成18年4月28日制定）は、廃止する。

(6) 島根大学構内における埋蔵文化財の取扱いに係る判断基準

1 目的

本基準は、文化財保護法（昭和25年法律第214号）の趣旨を尊重し、島根大学敷地内の開発事業に伴う埋蔵文化財の取扱いに係る基本的な判断基準を定め、埋蔵文化財を適切に保護し、将来への保存を図ることを目的とする。

2 適用対象

本基準は、島根大学が所有する全ての敷地内における開発に伴う埋蔵文化財取扱いに適用する。

3 定義

(1)「試掘調査」とは、埋蔵文化財の有無が地表面の観察等からでは判断できない場合に、部分的に発掘する調査をいう。

(2)「確認調査」とは、埋蔵文化財包蔵地の範囲・性格・内容等の概要までを把握するため、部分的に発掘する調査をいう。

(3)「発掘調査」とは、開発事業等に際し、影響を受ける埋蔵文化財を事前に発掘し、詳細な記録を作成する措置を執ることをいう。

(4)「工事立会」とは、工事の施工に際し、専門職員等が立ち合い、遺構・遺物包含層等が確認

される等のことがあった場合には、必要に応じて適切な措置を執ることをいう。

(5)「慎重工事」とは、埋蔵文化財包蔵地において工事を行うものであることを十分認識したうえで慎重に施工することをいう。

4 埋蔵文化財として取扱う時代範囲

(1) 近世までに属する遺跡は、原則として全て埋蔵文化財として取扱うこととする。

(2) 近現代の遺跡については、島根県や各市町村ならびに島根大学の歴史解明のために重要なものを埋蔵文化財として取り扱うこととし、その決定は、島根大学ミュージアム埋蔵文化財専門委員会において行なうこととする。

5 「発掘調査」を要する範囲の決定

埋蔵文化財の「発掘調査」を要する範囲は、それまでに行われた諸調査の成果に加え、必要に応じて「試掘調査」・「確認調査」等を実施したうえで、島根大学ミュージアム埋蔵文化財専門委員会において決定する。

6 埋蔵文化財取扱いの判断基準

開発事業に際しての埋蔵文化財の取扱いについては、次の原則と別表に基づいて、「発掘調査」その他の措置を講ずるものとし、その決定は、島根大学ミュージアム埋蔵文化財専門委員会において行なうこととする。

(1) 次の場合においては、「発掘調査」を実施するものとする。

ア 工事により埋蔵文化財が掘削され、破壊される場合。

イ 掘削が埋蔵文化財に影響を及ぼさない場合であっても、工事によって地下の埋蔵文化財に影響を及ぼすおそれのある場合。

ウ 一時的な工作物の設置や盛土・埋立の場合であっても、その重さによって地下の埋蔵文化財に影響を及ぼすおそれのある場合。

エ 恒久的な工作物の設置や盛土・埋立により、埋蔵文化財と人との関係が絶たれ、当該埋蔵文化財が損壊したのに等しい状態となる場合。

(2) 次の場合においては、「工事立会」を行うものとする。

ア 一時的な工作物の設置や盛土・埋立で、現地で状況を確認する必要がある場合。

イ 恒久的な工作物の設置や盛土・埋立の場合であっても、将来的に発掘調査が可能な条件が満たされると判断される場合。

(3) 既に行われた土木工事等により埋蔵文化財が損壊を受けた範囲内の工事で、埋蔵文化財に新たな影響が生じないと判断される場合等は、「慎重工事」の措置を講ずる。なお、施工中に遺構・遺物を発見した場合は、速やかにミュージアムに連絡をとり、所定の手続きをとる。

7 島根県教育委員会・関係市町村教育委員会との連携について

埋蔵文化財の取扱いに関しては、島根県教育委員会をはじめ関係市町村教育委員会と十分な連携をはかり、慎重に判断するものとする。

8 開発計画から埋蔵文化財取扱いまでの流れ

開発計画から埋蔵文化財取扱いまでの流れは、別図に基づいて適切に進めるものとする。

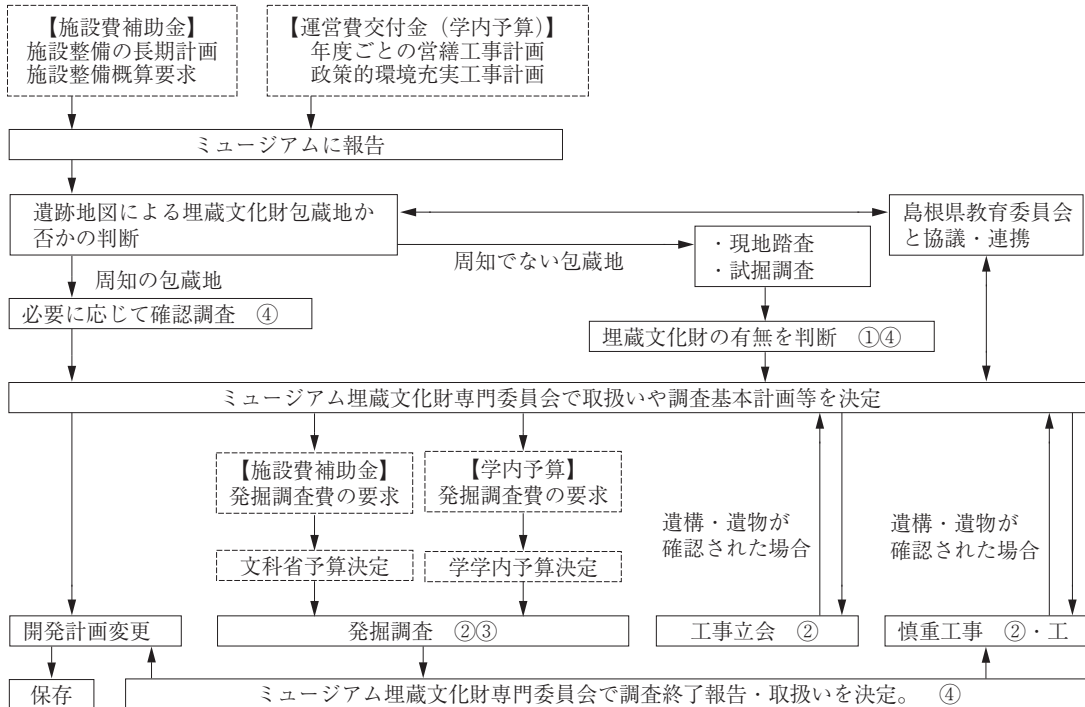
附 則

本基準は、平成18年4月1日から適用する。

別表

工事内容・種類	取扱い	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 工事により埋蔵文化財が掘削され、破壊される場合。 ・ 掘削が埋蔵文化財に直接及ばない場合であっても、工事によって地下の埋蔵文化財に影響を及ぼすおそれがある場合。 ・ 通常20年以上の耐久度を有しない一時的な工作物の設置や盛土・埋立の場合であっても、その重さによって地下の埋蔵文化財に影響を及ぼすおそれがある場合。 ・ 通常20年以上の耐久度を有した恒久的な工作物の設置や盛土・埋立により、埋蔵文化財と人との関係が絶たれ、当該埋蔵文化財が損壊したのに等しい状態になる場合。 	<p>開発事業等に際し、事前に「発掘調査」を実施し、詳細な記録を作成する。</p>	発掘調査
<p>道路</p> <p>厚さ2m以上の恒久的な盛土・埋立</p> <p>校舎・共同溝等の建築物・埋納物</p>		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 一時的な工作物の設置や盛土・埋立で、現地で状況を確認する必要がある場合。 ・ 恒久的な工作物の設置や盛土・埋立の場合であっても、将来的に発掘調査が可能な条件が満たされると判断される場合。 	<p>工事の施工中に調査員が立ち会い、遺構・遺物包含層等が確認される等があった場合には、その記録をとり、工事を変更する等、適切な措置を講ずる。</p> <p>ただし、次の場合においては、発掘調査を実施するものとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 将来において発掘調査が可能な条件が満たされない場合。 ・ 遺構面あるいは遺物包含層上面から厚さ30cm程度の保護層が確保できない場合。 ・ 掘削等により埋蔵文化財に影響が及ぶ部分とそうでない部分、あるいは埋蔵文化財に影響が及ぶ部分と盛土・埋立の部分とが著しく交錯する場合。 ・ 現地表面に立体的に遺存する埋蔵文化財が、盛土等の施工に伴う地形の変化により、外観上所在が把握できなくなる場合 	工事立会
<p>道路</p> <p>歩道</p> <p>植樹帯・緑地帯</p> <p>野球場・競技場</p> <p>駐車場</p> <p>公園・緑地</p> <p>厚さ2m未満の恒久的な盛土・埋立</p>		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 既に行われた土木工事等により埋蔵文化財が損壊を受けた範囲内の工事で、埋蔵文化財に新たな影響が生じないと判断される場合。 	<p>埋蔵文化財包蔵地において工事を行うものであることを十分認識したうえで、慎重に施工し、遺構・遺物を発見した場合は、速やかにミュージアムに連絡をとる。</p>	慎重工事

別図 開発と埋蔵文化財取扱いについてのフローチャート



(注)

- ①遺構・遺物を確認した場合、「遺跡発見届」を鳥根県教育委員会（市町村教育委員会経由）に提出。
- ②埋蔵文化財発掘届（文化財保護法）第93条第1項を調査（工事）開始60日前までに鳥根県教育委員会（市町村教育委員会経由）に提出。
- ③埋蔵文化財発掘届（文化財保護法92条第1項）を調査開始30日前までに鳥根県教育委員会（市町村教育委員会経由）に提出。
- ④遺物を発見した場合、「埋蔵文化財発見届」を所轄警察署に提出。

2 組織

(1) 組織構成と構成員

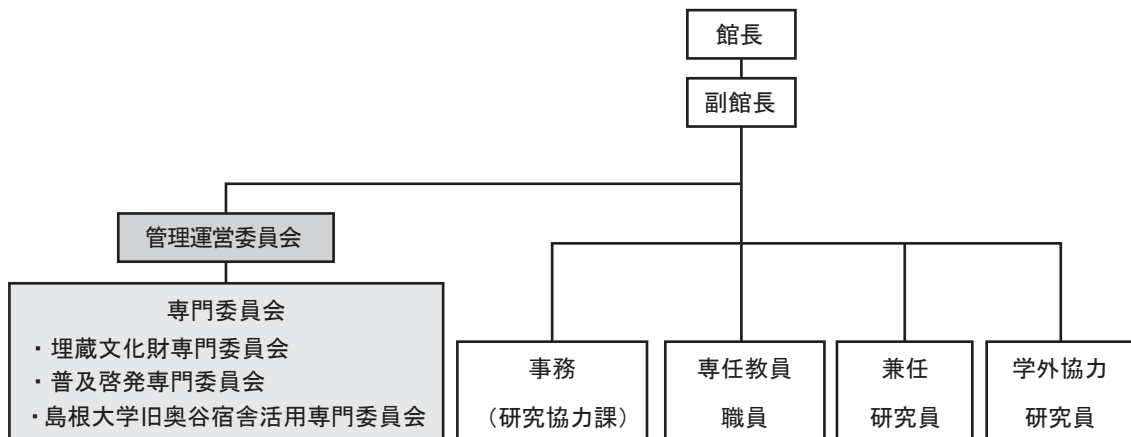


図1 ミュージアムの組織図

館長	教育学部	教授	林 正久
副館長	ミュージアム	准教授	會下 和宏
兼任研究員	法文学部	教授	大橋 泰夫
	法文学部	教授	山田 康弘
	法文学部	准教授	小林 准士
	法文学部	准教授	西田 兼
	法文学部	准教授	飯野 公央
	教育学部	教授	大谷 修司
	教育学部	准教授	作野 広和
	医学部	教授	小林 裕太
	総合理工学部	教授	三瓶 良和
	総合理工学部	准教授	酒井 哲弥
	生物資源科学部	教授	片桐 成夫
	生物資源科学部	准教授	秋吉 英雄
	生涯学習教育研究センター	教授	仲野 寛
	国際交流センター	教授	安藤 安則
学外協力研究員	松江市政策部政策企画課	課長	藤原 亮彦
職員	研究協力課	技術補佐員	田中 浩子

(2) 管理運営委員会

委員長	館長	教授	林 正久
委員	副館長・専任	准教授	會下 和宏
	法文学部	教授	大橋 泰夫
	教育学部	准教授	長谷川博史
	医学部	教授	奥西 秀樹
	総合理工学部	教授	横田修一郎
	生物資源科学部	教授	黒田 正明

附属図書館長	教 授	平川 正人
総合情報処理センター長	教 授	野田 哲夫
生涯学習教育研究センター長	教 授	山下 政俊 (平成22年7月8日まで)
生涯学習教育研究センター長	教 授	田坂 郁夫 (平成22年10月1日から)

(3) 専門委員会

埋蔵文化財専門委員会

委 員 長 館長	教 授	林 正久
委 員 副館長・専任	准教授	會下 和宏
法文学部	教 授	大橋 泰夫
法文学部	教 授	山田 康弘
法文学部	准教授	岩本 崇
医学部	教 授	小林 裕太
総合理工学部	教 授	三瓶 良和
総合理工学部	准教授	酒井 哲弥
生物資源科学部	教 授	片桐 成夫

普及啓発専門委員会

委 員 長 館長	教 授	林 正久
委 員 副館長・専任	准教授	會下 和宏
法文学部	准教授	小林 准士
法文学部	准教授	西田 兼
教育学部	教 授	大谷 修司
医学部	教 授	小林 裕太
総合理工学部	教 授	三瓶 良和
総合理工学部	准教授	酒井 哲弥
生物資源科学部	准教授	秋吉 英雄

島根大学旧奥谷宿舎活用専門委員会

委 員 長 館長	教 授	林 正久
委 員 副館長・専任	准教授	會下 和宏
法文学部	准教授	飯野 公央
教育学部	准教授	作野 広和
医学部	教 授	小林 裕太
生物資源科学部	准教授	山岸 主門
生涯学習教育研究センター	教 授	仲野 寛
国際交流センター	教 授	安藤 安則
学外協力研究員		藤原 亮彦

Ⅱ 活動報告

1 主な活動日誌抄

平成22年4月

- 4月14日(水) ミュージアム管理運営委員会開催。
- 4月16日(金) 『島根大学ミュージアム年報―平成21年度―』刊行。
- 4月16日(金) ニュースレター『SHIMADAI MUSE』vol.3発行。

平成22年5月

- 5月2日(日) 作品展示・ワークショップ「幼子を包む空間～シュタイナー教育の現場より・季節のテーブルを中心に」(会場：島根大学旧奥谷宿舎、主催：島根シュタイナーの会) 開催。
- 5月8日(土) 第22回島根大学ミュージアム市民講座「松江城北地区ぶらり探訪」開催。
- 5月20日(木)～24日(月) アート展示「のびてちぢむ時間のこと」(会場：島根大学旧奥谷宿舎、主催：学外アート団体) 開催。
- 5月28日(金)～30日(日) 『『赤山講話』発祥の地 バークレー・F・バックストン写真展』(会場：島根大学旧奥谷宿舎、主催：赤山バックストン記念会) 開催。

平成22年6月

- 6月5日(土) まつえ市民大学・芸術文化カレッジ・美術コースで受講生45名が島根大学ミュージアム・島根大学旧奥谷宿舎見学。
- 6月9日(水) 「水彩画ワークショップ」(会場：島根大学旧奥谷宿舎庭園、主催：水彩クラブA・T) 開催。
- 6月13日(日) 作品展示・ワークショップ「シュタイナー教育の現場より・私の手のはたらき～生活科」(会場：島根大学旧奥谷宿舎、主催：島根シュタイナーの会) 開催。
- 6月23日(水)～6月30日(水) 写真展「水無月展」(会場：島根大学旧奥谷宿舎、主催：島根大学写真部) 開催。
- 6月26日(土) 第23回島根大学ミュージアム市民講座「東南アジア(インドネシア)、西アフリカ(マリ、ニジェール)、中央アメリカ(メキシコ)の自然環境と農業」開催。
- 6月30日(水) 「みのりの小道 in 奥谷宿舎(裏庭でクロタラリアを播種)」(主催：島根大学生物資源科学部) 開催。

平成22年7月

- 7月1日(木) 川津小学校課外授業で児童・教員22名がミュージアム見学。
- 7月2日(金) 米子南高校の生徒・教員27名がミュージアム見学。
- 7月15日(木) 『るるぶ松江・出雲・石見銀山'11』に島根大学旧奥谷宿舎(サテライトミュージアム)掲載。
- 7月16日(金) 詩・写真など作品展「心」(会場：島根大学旧奥谷宿舎、主催：学外個人) 開催。
- 7月17日(土) 第24回島根大学ミュージアム市民講座「メコン川流域の古代遺跡」開催。
- 7月17日(土)～25日(日) 洋画作品展「池尻都作品展」(会場：島根大学旧奥谷宿舎、主催：学外個人) 開催。
- 7月28日(水) 松徳学院高校の生徒・教員26名がミュージアム見学。

平成22年8月

- 8月1日(日) 作品展示・ワークショップ「シュタイナー教育の現場より・絵画」(会場：島根大学旧奥谷宿舎、主催：島根シュタイナーの会) 開催。
- 8月2日(月) 夏休み子どもミュージアム体験教室「探検！サルガ鼻洞窟遺跡」開催。
- 8月7日(土) 第25回島根大学ミュージアム市民講座「南極の露岩地域の自然と生物」開催。
- 8月8日(日) 島根大学オープンキャンパスで展示解説。
- 8月9日(月)～12日(木) 学寮の改築に伴う試掘調査。
- 8月12日(木) ミュージアム埋蔵文化財専門委員会(試掘調査現地検討会) 開催。

平成22年9月

- 9月4日(土) 「読書会」(会場：島根大学旧奥谷宿舎、主催：島根大学ラフカディオ・ハーン研究会) 開催。
- 9月8日(水) 「水彩画ワークショップ」(会場：島根大学旧奥谷宿舎庭園、主催：水彩クラブA・T) 開催。
- 9月9日(木) 県立邇摩高校の生徒・教員20名がミュージアム見学。
- 9月11日(土) インドからの留学生によるトークイベント開催。
- 9月12日(日) ケニアからの留学生によるトークイベント開催。
- 9月14日(火) 出雲市立河南中学校の生徒7名が課外授業でキャンパスツアー参加。
- 9月18日(土) ベトナム人留学生によるトークイベント開催。
- 9月23日(木祝) 中国人留学生によるトークイベント開催。
- 9月26日(日) 韓国人留学生によるトークイベント開催。

平成22年10月

- 10月2日(土) 第26回島根大学ミュージアム市民講座「南極とラブラドル(カナダ)の氷河地形と地球環境」開催。
- 10月2日(土) 島根大学のニホンアシカ、鳥取県立博物館で展示(10/9～11/14)のため貸出
- 10月4日(月) 生物資源科学部の授業でミュージアム見学。
- 10月7日(木) 日本叙勲者協会の会員がキャンパスツアー参加。
- 10月9日(土) 第4回ホームカミングデーでキャンパスツアー開催。
- 10月9日(土)～10日(日) 学園祭企画「クイズに答えてミュージアムグッズをもらおう！」開催。
- 10月13日(水) 県立隠岐高校の生徒20名が山陰地域資料展示室を団体見学。
- 10月16日(土) 第27回島根大学ミュージアム市民講座「出雲の石造文化探訪～田原神社(春日神社)の狛犬を観察してみよう！」開催。
- 10月19日(火) 県立横田高校の生徒・教員9名がミュージアム見学。
- 10月20日(水) 島根大学旧奥谷宿舎に寄付者銘板設置。
- 10月22日(金) 川津小学校の児童40名がキャンパスツアー参加。
- 10月26日(火) ミュージアム管理運営委員会開催。
- 10月26日(火) 矢上高校の生徒21名がミュージアム見学。

平成22年11月

- 11月3日(水祝) 受験生がキャンパスツアー参加。
- 11月4日(木) 大社高校の生徒20名がミュージアム見学。
- 11月8日(月) 清心養護学校の児童・教員6名がミュージアム見学。
- 11月9日(火) 古代出雲ボランティアの会の会員41名がミュージアム見学。
- 11月12日(金)～14日(日) 写真展「心」(会場：島根大学旧奥谷宿舎、主催：学外個人) 開催。
- 11月13日(土) 島根大学公開講座・第6回島根まるごとミュージアム体験ツアー「日本のフレスコ画・石見銀山周辺の鍔絵を鑑賞する」開催。
- 11月20日(土) 第28回島根大学ミュージアム市民講座「弥生時代の絵画資料からみた『出雲』形成前夜の山陰地方」開催。
- 11月20日(土) 講演会「奥谷の洋館に住んだ人たちと地域住民との交流」(会場：島根大学旧奥谷宿舎、主催：松江市観光ボランティアガイドの会) 開催。
- 11月25日(木) 東出雲町公民館のサークル会員がキャンパスツアー参加。
- 11月30日(火) 『島根大学埋蔵文化財調査研究報告第9冊』刊行。

平成22年12月

- 12月3日(金)～5日(日) 写真展・絵画展「心」(会場：島根大学旧奥谷宿舎、主催：学外個人) 開催。
- 12月11日(土)～12日(日) 水彩画・油彩画・写真展示と絵画教室「メリークリスマス！」(会場：島根大学旧奥谷宿舎、主催：水彩クラブA・T) 開催。
- 12月18日(土) 冬休み子供ミュージアム体験教室「LEDでクリスマスイルミネーションを点滅

させよう！」開催。

12月18日(土)～1月10日(月祝) ミュージアム企画展示「ラオスの伝統工芸展」開催。

12月21日(火) 県内高校生がキャンパスツアー参加。

12月25日(土) 第29回島根大学ミュージアム市民講座「古墳時代後期の出雲―石棺式石室を中心として」開催。

平成23年1月

1月15日(土)～2月6日(日) 島根大学法文学部言語文化学科芸術学演習成果発表「七色八雲 百二十年の響鳴」(会場：島根大学旧奥谷宿舎、主催：島根大学法文学部言語文化学科・伊集院研究室)開催。

1月22日(土) 第30回島根大学ミュージアム市民講座「弥生・古墳時代の地域と集団」開催。

平成23年2月

2月5日(土) 第31回島根大学ミュージアム市民講座「考古学からみた『出雲国風土記』と出雲国府」開催。

2月10日(木)～2月13日(日) 写真展「心」(会場：島根大学旧奥谷宿舎、主催：学外個人)開催。

2月19日(土)・26日(土) 子供教室(会場：島根大学旧奥谷宿舎、主催：学外個人)開催。

平成23年3月

3月5日(金) ミュージアム管理運営委員会開催。

3月5日(土) 第32回島根大学ミュージアム市民講座「『出雲国風土記』所載神社の比定をめぐって」開催。

3月5日(土) 「読書会」(会場：島根大学旧奥谷宿舎、主催：島根大学ラフカディオ・ハーン研究会)開催。

3月8日(火) 島根大学生物資源科学部所蔵標本類の調査。

3月12日(土) 水墨画教室(会場：島根大学旧奥谷宿舎、主催：学外サークル)開催。

3月17日(木) 島根大学附属中学校所蔵標本類の調査。

3月18日(金) 奈良県の親子がキャンパスツアーに参加。

3月19日(土)～3月21日(月) 「3月―3回生の美術展“マーチ”」(会場：島根大学旧奥谷宿舎、島根大学教育学部美術教育専攻学生グループ主催)開催。

3月26日(土)～27日(日) 写真展「心」(会場：島根大学旧奥谷宿舎、主催：学外個人)開催。

3月31日(木) 雲南市加茂町図書館ボランティア団体15名がミュージアム見学。

2 標本資料類などの収集、整理・保管、調査研究

(1) 標本資料類などの収集

平成22年度は特になし。

(2) 標本資料類などの整理・保管

島根大学構内遺跡出土遺物や上記標本類などのミュージアム所蔵資料は、ミュージアム本館の建物内収蔵室において適切な環境のもとに整理・保管している。

また、ミュージアム所蔵の化石標本などについて詳細情報のリスト化を進めた。

(3) 標本資料類などの調査研究

①島根大学構内遺跡出土遺物の研究

「Ⅱ－6 本学構内の埋蔵文化財の取扱い」で後述する。

②島根大学所蔵資料類の悉皆調査

平成22年6月、どの学部にどのような標本資料が保管されているかを把握する島根大学所蔵資料悉皆調査を実施し、既往リストの更新作業を行った。

また、島根大学生物資源科学部や島根大学附属中学校に所蔵されている剥製標本、骨格標本、岩石標本、教育機器などの確認調査を行った。これらのなかには、戦前の旧制松江高校や島根師範学校(男子部)に所蔵されていたものが含まれることを確認した。特に、ニホンカモシカの剥製など、現在では特別天然記念物になっているものなどもあり、次年度以降、さらに学術的価値や歴史的価値について調査を進めたい。

3 標本資料類などに関わる教育、普及啓発

島根大学憲章に明記された、「地域に根ざし、地域社会から世界に発信する個性輝く大学」という本学の理念を具体的に実現させるために、ミュージアムミッションに沿って、以下のような、様々な展示、教育普及プログラムを開発・企画し実施した。以下、種類ごとに詳述していきたい。

(1) 入館者数

松江キャンパス

学内の展示施設のうち、ミュージアム本館（ミュージアム管轄）と山陰地域資料展示室（汽水地域研究センター管轄）の入館者数は下表の通りである。

ミュージアム本館は、平日（月～金）午前9時～午後4時30分開館で、時間内は見学者を随時受け入れる体制になっているが、山陰地域資料展示室などは、通常閉鎖されており、見学希望者のみに案内するため、団体見学者が多数を占める結果となっている。10月の入館者数が突出して多い要因は、特別授業「島大ミュージアム学（受講登録者287名）」で見学したためである。冬季には見学者数がやや減少する傾向がみられたが、例年に比べて改善傾向にある。

また、小規模展示室が分散し、ミュージアム本館以外の展示施設が通常閉鎖されている現状では、飛び込みの見学者を増やしていくため、ある程度の面積をもつ一元的なコア展示室の整備について、今後とも継続要望していきたい。

サテライトミュージアム島根大学旧奥谷宿舎（松江市奥谷町140）

松江市奥谷町にあるサテライトミュージアム島根大学旧奥谷宿舎は、平成21年10月に修復工事を終えてオープンし、原則、土日祝日のみ午前10時～午後5時に開館している。2年目にあたる平成22年度は、いかに持続的・安定的に集客するかが課題であった。入館者数は下表の通りである。

4～6月の春季と11月は比較的に入館者数が多かったが、猛暑の8月、天候が悪く積雪も多かった冬季には、減少傾向であった。

平成22年度は、学内外の団体・個人から作品展などのイベントを募集し、共同開催するという、大学の地域貢献事業も兼ねた試みが軌道にのり、年間を通じて定期的に催し物を開催することができた。ミュージアム単独での常設展示や単発の企画展示では限界があるため、今後ともこうした様々な団体・個人とのコラボレーションによって継続的にイベントを開催し、リピーター確保に努めたいと考える。

また、現状では松江市内在住の見学者が大半であるため、近隣の松江城や塩見縄手の観光客をいかに旧奥谷宿舎まで誘客するかが課題となる。これについては、パンフレットを堀川遊覧船乗り場などの近隣観光施設に置かせてもらうなどの工夫をした。また、JTB発行『るるぶ松江・出雲・石見銀山'11』や松江開府400年祭推進協議会発行『松江開府400年祭公式ガイドブック・春号』などにも掲載されるなどして、少しずつ観光客にも認知されつつある。しかし、現状における来館者は依然として松江市民が大半を占めており、今後とも様々な対策を講じる必要がある。

平成22年度の入館者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
ミュージアム本館	40	41	70	110	21	51	491	70	20	22	42	40	1018
山陰地域資料展示室	17	2	55	91	113	31	452	55	18	5	0	17	856
サテライト (旧奥谷宿舎)	164	453	208	118	105	166	115	333	102	63	97	181	2105
計	221	496	333	319	239	248	1058	458	140	90	139	238	3979

*サテライトは土日祝日のみ開館

(2) 常設展示

島根大学ミュージアムは、学内にある様々な展示施設・資料を「まるごとミュージアム」とし

て位置付け、総称したものである。主な展示施設・内容は以下の通りである。

①松江キャンパス

■島根大学ミュージアム本館

島根大学ミュージアムのコア施設。島根大学のキャンパス内は、大学ミュージアム（平成6～17年度は埋蔵文化財調査研究センター）によって、永年にわたり発掘調査がおこなわれており、主に、こうした島大キャンパス出土の考古資料を展示している。また、本館には、ミュージアム職員が常駐し、島根大学ミュージアムの総合案内、情報発信などを行っている。

<祝休日を除く月～金・午前9時～午後4時30分開館。開館時間内は自由に見学できる。事前に予約すれば、祝休日でも開館。>

■正門門柱（国登録有形文化財）

1924（大正13）年3月建造。松江市忌部産の花崗岩（白御影石）製の正門柱2、脇門柱2からなる。旧制松江高等学校の正門として制作・使用された後、島根大学の正門として受け継がれた。2007（平成19）年5月、国登録有形文化財に登録された。

■「総合理工学部」研究紹介コーナー（総合理工学部3号館1階ロビー）

総合理工学部の教育研究内容や所蔵標本の一部を展示。

<祝休日を除く月～金・午前8時30分～午後5時開館。開館時間内は自由に見学できる。>

■ミニ学術植物園「みのりの小道」(生物資源科学部棟周辺)

生物資源科学部によって運営されている、くつろぎながら学べる植物園。花壇などのほか、研究成果や豆知識などを説明したパネルを配置。整備作業には、学生や地域市民も参加している。

<年中無休。自由に見学できる。>

■「古代出雲文化資料調査室」展示室（ミュージアム本館北隣）

法文学部考古学研究室が所蔵する考古資料の一部を展示。1953（昭和28）年、文理学部の一室に設けられた標本室が、1978（昭和53）年、法文学部歴史学陳列室となり、2005（平成17）年3月、「古代出雲文化資料調査室」2階に移設された。膨大な量の収蔵資料は、故山本清名誉教授によって収集されたものや旧制松江高等学校に保管されていたものなどからなり、日本考古学を研究するうえで貴重なものが多く含まれている。

<普段は閉館しているが、見学希望者は、ミュージアム本館の職員に申し込めば開館する。>

■山陰地域資料展示室（汽水域研究センター1階内）

汽水域研究センターの前身である山陰地域研究総合センターが中心となり、1987（昭和62）年10月に「山陰地域研究総合センター資料展示室」が開設された。本展示室は、1992（平成4）年4月に汽水域研究センターが設置されたことに伴い、これを引き継いだものである。動物標本、化石・岩石標本、考古資料など、山陰地域・汽水域に関わる様々な分野の資料が総合的に展示してある。

<祝休日を除く月～金・午前9時～午後4時開館。見学希望者は、ミュージアム本館の職員か汽水域研究センター事務室の職員に申し込めば対応。予約不要。>

■「同窓会連合会」展示コーナー（附属図書館1階内）

島根大学や前身校である松江高等学校・島根師範学校・島根農科大学などの学校史に関わる写真・資料などが展示してある。

<祝休日を除く月～金・午前10時～午後3時開館。開館時間内は自由に見学できる。>

■附属図書館本館

附属図書館本館には、一般の蔵書のほか、膨大な量の古文書、絵図、貴重資料などが所蔵されている。正面入口を入って左側にミニ展示コーナーがあるほか、3階に小泉八雲関係の書籍・パネルを展示した「八雲文庫（8：30～17：00）」が設けてある。

<開館時間 月～金：午前9時～午後9時30分（授業のない期間は午後5時まで）

土・日・祝休日：午前10時～午後5時30分（授業のない期間は休館）

休館日 授業のない期間の土・日・祝休日、定例図書整理日（偶数月第4水曜日）

年末年始（12月29日～1月4日）、特別整理期間（8月中旬及び3月下旬）>

■「菅田ヶ丘古墳」移築展示

第2食堂の東隣には、移築復元された「菅田ヶ丘古墳」がある。もとは西方約50mの丘の上にあった、長さ約30m・高さ約3.5mの古墳。5世紀後半頃につくられたと考えられている。<年中無休。自由に見学できる。>

②出雲キャンパス

■附属図書館医学分館

附属図書館医学分館には、一般の蔵書のほか、大森文庫、古医書、明治以前の医療器具などがある。このうち、2階閲覧室前廊下には、華岡青洲の業績、大森不明堂三楽が学んだ華岡流医療、不明堂の医学塾生活、地元母里藩に帰国後の大森家の診療など、10枚のパネルで、大森文庫の内容を概観することができる。

<開館時間 月～金：午前9時～午後8時、土・日・祝休日：午前10時～午後4時

休館日 年末年始（12月28日～1月4日）その他分館長が認めた日>

■平野勲画伯ギャラリー（附属病院総合ホール内）

附属病院総合ホールの一角にて、地元出雲市の出身で、ふるさとのまつり・郷土芸能を描き続ける著名な漫画家・平野勲画伯の作品を展示。

③サテライトミュージアム島根大学旧奥谷宿舎（旧制松江高等学校外国人宿舎）：松江市奥谷町

旧制松江高等学校外国人教師（独語教師）向けに建てられた2階建て洋風建築の官舎。1924（大正13）年11月竣工。戦後は、島根大学の外国人教師宿舎、職員宿舎などとして利用された。2007（平成19）年5月、国登録有形文化財に登録された。2009（平成21）年6月から修復工事を実施し、同年10月にサテライト施設としてオープンした。

現在は、1階常設展示室①②で「写真が語る島根大学の歴史と旧奥谷宿舎」を開催。1階多目的室、2階多目的室①②では、学内外の団体・個人との共催による作品展・教室などを実施している。

<原則として土・日・祝休日・午前10時～午後5時開館>

（3）企画展示

①「いろいろな国の昔話を体験しよう」

主催 島根大学ミュージアム

協力 島根大学国際交流センター

期間 平成22年9月11日（土）～9月26日（日）の土日祝日 10：00～17：00

会場 サテライトミュージアム島根大学旧奥谷宿舎（松江市奥谷町140）・1階多目的室

目的・内容 島根大学旧奥谷宿舎（旧制松江高等学校外国人宿舎）は、大正時代～昭和20年代にドイツ人やアメリカ人教師が暮らした洋館で、外国人教師と生徒・地域市民による国際交流が繰り広げられた歴史を持っている。

展示大テーマ	展示資料
インドの紹介と昔話	・解説パネル
中国の紹介と昔話	・解説パネル
韓国の紹介と昔話	・解説パネル
ベトナムの紹介と昔話	・解説パネル
ケニアの紹介と昔話	・解説パネル

本展示会とトークイベントは、こうした歴史をもつ洋館を舞台にして、現代に再び国際交流を復活させるために企画したものである。

島根大学には、様々な国々から来日した、たくさんの方の留学生がいることから、彼らに協力してもらい母国の紹介パネルを作成し、あわせて連続トークイベントを開催する。

・連続トークイベント：島根大学の留学生による母国紹介と昔話語り 10：00～11：00

9月11日（土）：オブリラジ・センチルクマール（インド）

9月12日（日）：キャロライン・ワンビウ（ケニア）

9月18日（土）：ティン・ミン・ホン（ベトナム）

9月23日(木)：位多(中国)

9月26日(日)：チョン・ヒョチョン(韓国)

評価 留学生によるトークイベントでは、プロジェクターを用いた母国紹介、母国語講座、昔話語りなどが行われ、参加した地元市民・児童から活発に質問がなされるなど、楽しい国際交流の時間を作ることができた。初回の様子は、新聞報道もなされた。小泉八雲以来の国際交流の歴史がある松江の地で、旧外国人宿舎を会場にしたこうした催しは、大変意義深いものであったといえる。なお、解説パネルのイラスト作成にあたっては、島根大学教育学部学生ボランティアの協力を得ることができ、展示制作自体が、学生教育の一環になったといえる。

②「ラオスの伝統工芸展」

主催 島根大学ミュージアム

期間 平成22年12月18日(土)～26日(日)の土日祝日

平成23年1月8日(土)～10日(月祝) 10:00～17:00

会場 サテライトミュージアム島根大学旧奥谷宿舎(松江市奥谷町140)・1階多目的室

目的・内容 本展覧会は、わが国にとって比較的馴染みの薄い東南アジア・ラオス国の伝統工芸を紹介するものである。ミュージアム専任教員の会下で、ラオスにおけるフィールド調査の過程で収集した民族資料などを展示。日本では見ることの少ない「織物の宝石」と呼ばれる手織物、竹細工、銀細工、現地の写真などを展示して、魅惑の国ラオスに触れてもらう。コクのあるラオスコーヒーの試飲体験やラオスの民族衣装「シン」の試着体験といった参加型展示も実施。

展示大テーマ	展示資料
1. ラオスの国土・地理	・解説パネル／写真
2. ラオスの歴史	・ベトナム戦争時に投下された爆弾の殻を再加工したテーブル ・解説パネル／写真
3. ラオスの生活	・もち米を炊く鍋など ・プーニューとニャーニュー(ラオス正月の祭りに登場するラオスの神様)の人形 ・解説パネル／写真
4. ラオスの工芸品	・様々な銀細工 ・ラオスの民族楽器：ケーン(ラオス笙) ・ご飯を入れるティップカオ ・パカオ(竹で編んだテーブル) ・セパタクローのボール ・ラオスの民族衣装：シン(巻きスカート) ・北部少数民族の衣裳 ・北部少数民族の布製バック ・モン族のパッチワーク ・手織布 ・解説パネル／写真

評価 あまり知らないラオス国の手織物に触れたり、民族衣装の試着ができたりして、大変新鮮であったといった感想をもらった。また、新聞報道による紹介もなされた。大学教員が海外調査で収集した資料を展示するというこうした企画は、島根大学の研究成果を紹介するうえでも意義があり、市民の関心も高いことから、今後とも立案・実施していきたい。



「いろいろな国の昔話を体験しよう」での留学生によるトークイベント（22.9.26）
大正時代の外国人宿舎を会場にして、平成時代の新しい国際交流を行った。



企画展示「ラオスの伝統工芸展」(22.12.18～23.1.10)
大正時代の近代建築空間の中で民族資料を美術作品的に展示。

（４）展示案内・キャンパスツアーなど

①展示案内

ミュージアム本館に来館した見学者に分かりやすく展示解説したり、キャンパス内の別の場所にある展示施設に誘導・案内したりした。

②キャンパスツアー

目的・内容 松江キャンパス内の各展示施設・研究室などをめぐるキャンパス・ウォーキングツアー。小中高校生・受験生・保護者・島根大学OB・市民一般に、島根大学構内やキャンパスライフの様子を理解してもらうことを目的としている。

キャンパスの敷居を低くして、地域から親しまれる大学作りを進めるための一環であるとともに、受験生には、志望校について具体的に知ってもらい、入学後の大学生活をイメージしてもらうこともねらいとしている。

予約をうけて、下記の①～⑧基本コースを中心に、学内の展示施設などを解説しながら案内している。

- ①旧制松江高校～島根大学正門の門柱（国登録文化財）
- ②総合理工学部3号館1F 研究紹介コーナー・3号館高層階からキャンパスや市街地を展望
- ③ミュージアム本館
- ④古代出雲文化資料調査室
- ⑤みのりの小道（ミニ学術植物園）
- ⑥汽水域研究センター「山陰地域・汽水域資料展示室」
- ⑦菅田ヶ丘古墳（移築復元）
- ⑧附属図書館、同窓会連合会展示コーナー

評価 主な実施状況は「Ⅱ－1 主な活動の日誌抄」に記してある。平成22年度は、島根県内を始め、奈良県から、島根大学進学希望受験生などの参加があった。本学の様子を知ってもらううえで、地道だが、有意義な活動であることを再認識した。

この他、日本叙勲者協会、古代出雲ボランティアの会、東出雲町公民といった各種団体の参加もあった。10月9日（土）に開催された第4回ホームカミングデーの一企画としてもキャンパスツアーを実施し、久しぶりに母校を巡ることができて懐かしかったという感想をいただいた。

③学園祭特別企画「島大ミュージアム・クイズラリー：クイズに答えてミュージアムグッズをもらおう！」

日時 平成22年10月9日（土）～10日（日） 午前9時～午後4時

場所 島根大学ミュージアム本館展示室・山陰地域資料展示室

内容 学内の展示室をめぐる、展示内容に関係するクイズに答えてもらい、全問正解で島根大学オリジナルグッズを進呈。

評価 2日間で約200名の親子・児童などがクイズに取り組み、展示室を熱心に見学してもらうことができた。

(5) 公開講座・フィールド体験ツアーなど

①ミュージアム市民講座

目的 ミュージアム市民講座は、主に島根大学の様々な専門分野の教職員などが講師を務め、自身の教育研究内容について、分かりやすくリレー講義するものである。生涯学習教育の一環として、本学の教育研究成果を市民一般や高校生などに広く理解してもらうことを目的としている。そのため、運営実務の面では、島根大学生涯学習教育研究センターと連携しながら実施している。

平成20・21年度に引き続き、毎月土曜日午後11時に計11回、開催した。内容は下記の通りである。

■平成22年度・第1ステージ「身近なフィールド・世界のフィールド～“グローバル”な視座から見た自然と文化～」

主催 島根大学ミュージアム

共催 島根大学生涯学習教育研究センター

趣旨 本講座では、我々の身近にある地域資源を再発見すると同時に、世界各地のフィールドにも目を広げて、様々な自然と文化を“グローバル”に探究する視座を養ってもらう。

対象 市民一般・大学生・高校生など誰でも受講可。

・第22回「松江城北地区ぶらり探訪」(フィールドワーク)

講師：會下和宏（島根大学ミュージアム副館長／准教授）

日時：平成22年5月8日(土) 午後1：00～2：30

場所：島根大学旧奥谷宿舎集合ののち町歩き

・第23回「東南アジア（インドネシア）、西アフリカ（マリ、ニジェール）、中央アメリカ（メキシコ）の自然環境と農業」

講師：増永二之（島根大学生物資源科学部教授）

日時：平成22年6月26日(土) 午後1：00～2：30

場所：城北公民館 第1・2研修室（松江市北堀町43）

・第24回「メコン川流域の古代遺跡」

講師：會下和宏（島根大学ミュージアム副館長／准教授）

日時：平成22年7月17日(土) 午後1：00～2：30

場所：城北公民館 第1・2研修室（松江市北堀町43）

・第25回「南極の露岩地域の自然と生物」

講師：巢山弘介（島根大学生物資源科学部准教授）

日時：平成22年8月7日(土) 午後1：00～2：30

場所：城北公民館 第1・2研修室（松江市北堀町43）

・第26回「南極とラブラドル（カナダ）の氷河地形と地球環境」

講師：林 正久（島根大学ミュージアム館長／島根大学教育学部教授）

日時：平成22年10月2日(土) 午後1：00～2：30

場所：城北公民館 第1・2研修室（松江市北堀町43）

・第27回「出雲の石造文化探訪～田原神社（春日神社）の狛犬を観察してみよう！」(フィールドワーク)

講師：永井 泰（モニュメント・ミュージアム来待ストーン館長）

日時：平成22年10月16日(土) 午後1：00～2：30

場所：島根大学旧奥谷宿舎集合ののち田原神社へ移動

■平成22年度・第2ステージ「考古学・歴史学が語る先史・古代の『出雲』」(まつえ市民大学連携講座)

主催 島根大学ミュージアム・島根大学萌芽研究プロジェクト「『出雲国』成立過程における地域圏の形成と展開に関する総合的研究」

共催 島根大学生涯学習教育研究センター・島根大学法文学部山陰研究センター

趣旨 島根大学萌芽研究プロジェクト「『出雲国』成立過程における地域圏の形成と展開に関する総合的研究」のメンバーを講師とする「古代出雲」をテーマにした連続講座。近年、「古代出雲」をめぐる出版やイベントが盛んであるが、とすれば出雲神話のイメージに先導されすぎたきらいのある内容も散見される。本講座では、地域の遺跡や史料を丹念に分析した実証研究の成果から、先史・古代における「出雲」の実像にアプローチするものである。

対象 市民一般・大学生・高校生など誰でも受講可。

場所 松江スティックビル市民活動センター（松江市白潟本町43）5階 501・502研修室

内容

・第28回「弥生時代の絵画資料からみた『出雲』形成前夜の山陰地方」

講師：山田康弘（島根大学法文学部教授・島根大学ミュージアム兼任研究員）

日時：平成22年11月20日（土） 午後1：00～2：30

・第29回「古墳時代後期の出雲―石棺式石室を中心として―」

講師：角田徳幸（島根県古代文化センター専門研究員）

日時：平成22年12月25日（土） 午後1：00～2：30

・第30回「弥生・古墳時代の地域と集団―出雲地域を中心に―」

講師：岩本 崇（島根大学法文学部准教授・島根大学ミュージアム兼任研究員）

日時：平成23年1月22日（土） 午後1：00～2：30

・第31回「考古学からみた『出雲国風土記』と出雲国府」

講師：大橋泰夫（島根大学法文学部教授・島根大学ミュージアム兼任研究員）

日時：平成23年2月5日（土） 午後1：00～2：30

・第32回「『出雲国風土記』所載神社の比定をめぐって」

講師：大日方克己（島根大学法文学部教授）

日時：平成23年3月5日（土） 午後1：00～2：30

評価 第1ステージは、アクセスの利便性が比較的良好くない城北公民館などを会場にして行ったためか、毎回15～20名の受講者数で推移した。

第2ステージは、利便性が高く、駐車場もある松江スティックビル市民活動センター（松江市白潟本町43）に会場を移した。市民の関心が比較的高い「古代出雲」がテーマであったことも寄与して、毎回60名を超える受講者が参加した。受講者アンケートによれば、チラシ・ポスターを見て参加した受講者が大半であったため、今後ともこうした紙媒体を適所に有効に配布するといった広報活動を戦略的に推進していきたい。また、島根大学生涯学習教育研究センターの連携で「まつえ市民大学」ともタイアップし、広報活動の支援を受けた点も受講者数の増加につながった要因とみられる。



第25回市民講座「南極とラブラドル（カナダ）の氷河地形と地球環境」(22.10.2)



第31回市民講座「考古学からみた『出雲国風土記』と出雲国府」(23.2.5)

②フィールド体験ツアー（島根大学公開講座）

目的 フィールド体験ツアーは、豊かで多様性のある島根県内の自然・歴史・文化資源を「フィールドミュージアム」「まるごとミュージアム」にみたく、島根大学所有のバスを活用して現地に訪れ、見学する企画である。県内に埋もれた地域資源を再発見してもらうことを目的としている。

例年、島根大学生涯学習教育研究センターが運営する島根大学公開講座の一環として実施している。

■第6回島根まるごとミュージアム体験ツアー「日本のフレスコ画・石見銀山周辺の鍍絵を鑑賞する」(まつえ市民大学連携講座)

日時 平成22年11月13日(土) 8:30～17:30

講師 會下和宏（島根大学ミュージアム副館長／准教授）

内容 世界遺産・石見銀山周辺の大田市・邑智郡美郷町などには、明治～昭和期の石州左官職人による鍍絵（漆喰で描いた半立体の浮彫）が多く残されている。今回の体験ツアーでは、これらの作品が残る寺や蔵などをバスでまわり、作品を鑑賞して、失われつつある地域の文化遺産の価値を再発見してもらう。さらに世界遺産に登録されている石見銀山鉾山町「大森町」の町並みも見学する。

<見学コース>

島根大学松江キャンパス出発（8:30頃）

	家屋名	図柄	制作年代	位置	職人名
1	長福寺（大田市波根町）	虎・龍	明治	経蔵	
2	西往寺（大田市仁摩町）	双龍	明治18年	本堂正面	安田鹿市・児島嘉六
		金毛九尾の狐	明治36年（推定）	本堂正面	安田伊三郎（推定）
		安珍清姫	明治36年	本堂正面	安田伊三郎
3	世界遺産・石見銀山鉾山町の大田市大森町の町並み				
4	中田家（大田市水上町）	月にウサギ、竹林の虎	昭和8年	客殿戸袋	荻原春市
5	山根家（邑智郡美郷町惣森）	鯉の滝登り、竹林の虎	昭和6年	離れ2階戸袋	荻原春市
6	大願寺（大田市大田町）	龍	明治	鐘楼門	
7	妙光寺（大田市大田町）	鳳凰、龍		鬼子母神堂	

松江駅・島根大学松江キャンパス到着（17:30頃）

*鍍絵については、荒俣宏 2010『アラマタ美術誌』新書館、渡部孝幸 2008『鍍なみはいけん』ワンラインを参照。

評価 参加者は41名。天候にも恵まれ、紅葉の里山なども楽しみながら、予定通り、鍍絵がある寺や蔵6か所と世界遺産・石見銀山鉾山町を見学することができた。個人で訪れることが困難な分かりづらい場所にあるものが多く、地域に埋もれた文化財の価値を再認識する貴重な体験ができたといった感想をいただき、大変好評だった。

③親子で学ぶ子どもミュージアム体験教室（小学生向け企画）

目的 子どもミュージアム体験教室は、島根大学がもつ研究機器や機材を活用して、小中学生向けに様々なミュージアム体験をしてもらうミュージアム・スタート活動である。児童・生徒たちに、島根大学でどんな研究をしているのか、大学内部の研究施設がどうなっているのかについて理解してもらうことで、将来的な島根大学進学への動機付けにってもらうこともねらいとしている。

■夏休み子どもミュージアム体験教室「探検！サルガ鼻洞窟遺跡」

後援 松江市教育委員会

日時 平成22年8月2日(月) 10:00～12:00

場所 島根大学汽水域研究センター中海分室（松江市八束町）

対象 小学生（3年生以上）とその親 7組

講師 會下和宏（島根大学ミュージアム副館長／准教授）

内容 島根大学汽水域研究センター中海分室からセンター所有の船に乗って、縄文時代の遺跡として有名な国史跡・サルガ鼻洞窟遺跡へ行き、現地を見学する企画。実際に洞窟の中に入って遺跡を観察するなど、遺跡踏査の重要性や遺跡見学の視点について体験学習してもらう。その他、原始の火起こし体験や縄文人も食べたサザエの壺焼き試食体験も行う。

評価 参加申込みが殺到し、定員を超えたため抽選した。参加登録者は親子14名（7組）。船、洞窟、遺跡といったキーワードが児童を惹きつけたと考えられ、今後の企画にも活かしていきたい。また、教室の様子は、地元ケーブルテレビや民放ニュースでも報道された。

■冬休み子どもミュージアム体験教室「LEDでクリスマスイルミネーションを点滅させよう！」

後援 松江市教育委員会

日時 平成22年12月18日（土） 10：00～11：30

場所 島根大学総合理工学部3号館9階901号室

対象 小学生（3年生以上）とその親10組

講師 山本真義（島根大学総合理工学部電子制御システム工学科講師）

内容 LED（発光ダイオード）開発をしている山本研究室の協力を得て、ハンダを使い、トランジスタの回路を作り、LEDをチカチカと点滅させる電子工作に挑戦する。完成したLEDイルミネーションをクリスマスツリーに飾り付ける。終了後、各家庭にお持ち帰り。電子工作用の基板などの下準備は同研究室の学生が準備。山本研究室で行っている、トンネル照明用LEDの開発製品紹介や研究室見学も行う。あわせて、同研究室が開発した電気自動車の展示と試乗体験も実施する。

評価 参加申込みが定員を超えたため抽選した。当日は1組欠席し、参加者は12名（6組）。電子工作が完成し、LEDが点滅すると、参加した児童は大変嬉しそうな表情を浮かべていた。また、



第6回島根まるごとミュージアム体験ツアー「日本のフレスコ画・石見銀山周辺の鏝絵を鑑賞する」(22.11.13)



夏休み子どもミュージアム体験教室「探検！サルガ鼻洞窟遺跡」(22.8.2)



冬休み子どもミュージアム体験教室でLEDを使った電子工作に挑戦！(22.12.18)



冬休み子どもミュージアム体験教室で島根大学山本研究室が開発した電気自動車に試乗(22.12.18)

研究室が開発した電気自動車の試乗体験では、保護者の方もワクワクした表情で静かに走る自動車を体感していた。

児童の理系離れが危惧される昨今だが、日本が得意とするモノづくりの面白さについて体験してもらうことができ、大変意義深いものとなった。この経験が、将来、日本の産業を背負って立つ技術者を目指すきっかけの一つになれば幸いである。

(6) 講義 (島大ミュージアム学)

後期に共通教養科目 (総合科目) の「島大ミュージアム学」を公開授業で実施した。概要は以下の通りである。

授業科目名 「島大ミュージアム学～島根大学と島根県の自然・歴史・ひと・文化～」

授業の目的 島根大学で学ぶ学生は、県内外の出身地を問わず、島根県の自然・歴史・文化や本学の学校史、顕著な業績をあげた教官・卒業生などについての知識が希薄であるように見受けられる。そこで本授業では、「ミュージアム」「フィールド」「モノ」をキーワードにして、島根県の自然・歴史・文化や島根大学の学校史・著名人 (自校教育) などの基礎的事項について、学際的に学ぶものとする。あわせて、公開授業として地域市民にも聴講してもらう。

達成目標 島根県・島根大学について、広い基礎知識を得てもらうようにする。本授業を通して、学生や地域市民のなかに、島根県や本学に対する誇り・愛着が醸成されることを期待する。

科目 共通教養科目・選択

対象 1年次、市民

単位数 2単位

曜日・時間 金曜日・2コマ目 (10:15～11:45)

担当教員

會下和宏 (島根大学ミュージアム准教授)、小泉 凡 (島根県立大学短期大学部教授)

橋村喜則 (島根大学元助教授)、松尾 寿 (島根大学名誉教授)

講義内容

日程	講義内容	講師
10月1日(金)	1. 島大ミュージアム学ガイダンス／大学ミュージアムとは	會下和宏
10月15日(金)	2. 発掘調査でわかった出雲地域の古環境	會下和宏
10月22日(金)	3. 島根県の自然－植生を中心に－	枕村喜則
10月29日(金)	4. 島根大学所蔵コレクション概説－学内の展示施設見学－	會下和宏
11月5日(金)	5. 歴史環境のなかの島大キャンパス－島根大学旧奥谷宿舍周辺を歩く－	會下和宏
11月12日(金)	6. 島根大学 (松江キャンパス) 周辺の遺跡・史跡	會下和宏
11月19日(金)	7. 島根大学 (出雲キャンパス) 周辺の遺跡・史跡	會下和宏
11月26日(金)	8. 島根県の歴史・偉人	會下和宏
12月3日(金)	9. 文化資源としての小泉八雲	小泉 凡
12月10日(金)	10. 島根大学史と島根県の近代高等教育－島大の前身校から国立島根大学まで－	會下和宏
12月17日(金)	11. 城下町松江の誕生と町の構造	松尾 寿
1月7日(金)	12. 島根大学の著名人	會下和宏
1月21日(金)	13. 島根大学の著名人Ⅱ	會下和宏
1月28日(金)	14. まとめ／未来の島根県・島根大学を考える	會下和宏
2月4日(金)	15. 期末試験 (選択問題90問出題)	—

評価 受講登録者数は、学生282名、学外社会人受講生5名である。平成20年度、受講希望者が350名以上を超えたため、授業の遂行上、平成21年度以降は、1年生のみに受講対象学年を限定している。

平成22年度も引き続き、第4回には、ミュージアム展示室において、前身校の時代から収集されてきた標本類の見学を行った。第5回には、旧制松江高校ドイツ人教師宿舎として建てられた島根大学旧奥谷宿舎（サテライトミュージアム、松江市奥谷町）やその周辺を散策し、歴史的な町の風景の価値、これらの保護と活用などについて考えさせることをねらいにした授業を実施した。

こうした標本類や建造物は、学術的な価値とともに島根大学の学校史を示す歴史的な資料でもある。学生達にとっては、これらの見学を通して、母校の永い歴史や伝統を可視的に理解することができたと考えられる。

本授業は、平成23年度から始まる「就業力育成特別教育プログラム」の履修対象科目に選定されており、今後は、当プログラムに盛り込まれているキャリアデザイン力や地域貢献力などの育成についても、これまで以上に射程にいれて、授業内容の改善と展開をはかっていきたい。

4 博物館学教育

従来、学芸員資格取得に関する科目の開講や博物館実習の段取りは、各学部が個別に実施していたが、平成21年度から教職科目以外で卒業単位とは無関係の科目については、ミュージアムにおいて一元的に開講している。

平成22年度、ミュージアムが開講した科目は以下の通りである。

平成22年度・学芸員資格取得に必要な科目

博物館法施行規則に定める科目及び単位		法文学部学生	生物資源科学部学生	総合理工学部学生
科目	単位			
生涯学習概論	1	生涯教育論（後期・集中・教職科目）(高岡信也) 2単位		
博物館概論	2	博物館概論（前期・集中） （會下和宏）	博物館概論（前期・集中） （*高安克己）	
博物館資料論	2	博物館資料論（前期） （會下和宏）	博物館学各論Ⅰ（後期・集中） （石田秀樹・宮永龍一・會下和宏）	
博物館経営論	1	博物館経営論（後期） （會下和宏）	博物館学各論Ⅱ （前期・集中）(會下和宏)	
博物館情報論	1	博物館情報論（後期） （會下和宏）		
視聴覚教育メディア論	1	教育情報科学概論 （後期・教職科目・2単位） （高山草二）	教育情報科学概論（後期・集中・教職科目・2単位） （百合田真樹人）	
教育学概論	1	教育原論Ⅱ（前期・教職科目・2単位）(權藤誠剛)	教育原論Ⅱ（後期・集中・教職科目・2単位） （畑 克明）	
博物館実習	3	博物館実習（前期・集中・1単位）(會下和宏)	博物館実習（後期・集中・1単位）(石田秀樹・高島育雄・宮永龍一)	博物館実習（後期・集中・1単位）(會下和宏)
		博物館実習に係る事前および事後指導（1単位）(會下和宏)	博物館実習に係る事前および事後指導（後期・集中・1単位）(石田秀樹)	博物館実習に係る事前および事後指導（後期・集中・1単位）(會下和宏)
		考古学実習Ⅲ （前期・後期・1単位） （會下和宏） その他学部の専門実習を振替	学部の専門実習を振替	学部の専門実習を振替

- ・*印は非常勤講師
- ・博物館実習の実施は、学外の各博物館に依頼。

下表の通り、学芸員資格取得に必要な科目の受講者数は、博物館概論で3学部合計100名以上を超えている。課程の最終段階で受講する博物館実習（館外実習）では、特に理系学生で減少する傾向がみられるものの、文系・理系学生とも学芸員資格取得に対して多くの需要があることが確認できる。また、例年、社会人による学芸員資格取得が数名みられ、学外の資格取得希望が一定程度あることも明記しておきたい。

なお、博物館法施行規則の一部改正によって、平成24年度から学芸員資格取得に必要な単位数が大幅に増加されることになっており、平成22年度は、増加する授業のカリキュラム案、時間割り、担当講師などについて検討した。平成23年度中に、これらの検討事項を決定し、文科省に申請する予定である。

上記のように学芸員資格は、教員免許と並んで、文系・理系学生とも取得ニーズが高い。授業が増加する平成24年度以降も、大学ミュージアム施設などを活用したり、大学ミュージアムの普及啓発活動と実習をリンクさせた形での教育プログラムを試行したりするなどの形で、より良質で実践的な授業を展開し、即戦力となり得る学芸員養成に努めていきたい。

学芸員資格取得に必要な科目の受講登録者数

		平成21年度	平成22年度
博物館概論	法文学部	51 (4)	36
	生物資源科学部	34	49
	総合理工学部	43	47
	合計	128	132
博物館実習	法文学部	52 (2)	34 (4)
	生物資源科学部	32	14
	総合理工学部	9	10
	合計	93	58

- ・人数は未修者なども含む。
- ・ () 内は社会人受講生 (科目等履修生) の人数。

5 標本資料類などに関わる情報発信、地域貢献

(1) 刊行物の発行・配布

下記の既刊・新刊刊行物を学内や学外関係諸機関、学校、県内観光施設、観光案内所などに配布した。

- ・携帯用パンフレット『島根大学ミュージアム』…ミュージアム展示を紹介。(A4サイズ・3つ折、平成18年度発行)
- ・携帯用パンフレット『いにしへのまちめぐり・松江温故知新(橋北版)』…松江旧市街(橋北地域)にある歴史・文化資源を江戸時代・昭和時代・現代の各地図にマッピングして解説。(平成19年度発行)
- ・携帯用パンフレット『いにしへのまちめぐり・松江温故知新(橋南版)』…松江旧市街(橋南地域)にある歴史・文化資源を江戸時代・昭和時代・現代の各地図にマッピングして解説。(島根大学萌芽研究プロジェクトの一環でミュージアム教員が制作。平成20年度発行)
- ・パンフレット『島根大学旧奥谷宿舎(旧制松江高等学校外国人宿舎)』(A4版、平成21年度発行)
- ・携帯用パンフレット『島根大学旧奥谷宿舎(旧制松江高等学校外国人宿舎)』(A4サイズ・3つ折、平成21年度発行)
- ・年報『島根大学ミュージアム年報 平成21年度』(平成22年4月発行)
- ・ニュースレター『シマダイ・ミュージズ』No.3(平成22年4月発行)
- ・埋蔵文化財発掘調査報告書『島根大学構内遺跡第14次調査(橋縄手地区2)』島根大学埋蔵文化財調査研究報告第9冊(平成22年11月発行)

(2) インターネット

島根大学ミュージアムのホームページ(<http://museum.shimane-u.ac.jp/>)を随時更新・拡充した。

また、松江版地域SNS運営協議会「まつえSNS(<http://matsuesns.jp/>)」、島根県文化振興財団「しまねキャッチナビ(<https://www.shimane-catchnavi.jp/>)」のほか、Twitter、Facebookなどの近年注目されているソーシャルメディアも実験的に活用し、イベント案内、活動報告などの情報発信を積極的に行った。

(3) データベース

「島根県遺跡データベース(平成15年度地域貢献事業によって島根大学地域貢献協議会が制作、<http://iseki.shimane-u.ac.jp/>)」に島根県内の遺跡データ(遺跡・遺構・遺物・調査・文献データ)を登録した。

データは、自治体・個人などが発行・発表した平成22年度刊行発掘調査報告書・資料紹介などに掲載してある情報を整理して収載した。

なお、本データベースは、約64万件のアクセスを記録しており、極めて使用頻度が高い。

(4) 地域貢献活動

「3 標本資料類などに関わる教育、普及啓発」で前述した「(4) 展示案内・キャンパスツアーなど」「(5) 公開講座など」は、主に地域市民が対象であることから、地域貢献活動にも該当している。

6 本学構内の埋蔵文化財の取扱い

(1) 学寮新営工事に伴う試掘調査

- ① 調査場所 島根県松江市西川津町字深町3371の1
- ② 調査機関 島根大学ミュージアム
- ③ 調査原因 島根大学学寮新営工事に伴う埋蔵文化財有無・内容の確認
- ④ 調査面積 約6 m²×3箇所
- ⑤ 調査期間 平成22年8月9日～12日
- ⑥ 調査目的

現在の学寮を解体し、平成23年度より新たに学寮を建設する工事が計画された。工事計画地の北側一帯は、戦国時代の尼子氏の山城・真山城などがあり、南東向きの斜面に位置していることから、何らかの遺跡の存在が予想された。こうしたことから、「島根大学構内における埋蔵文化財の取扱いに係る判断基準」に準拠して、埋蔵文化財の有無、遺構・遺物包含層の量などを確認し、その後の対応を決定する判断材料にするため、試掘調査を実施した。

⑦ 調査経過

平成22年8月9日 北東トレンチ重機掘削、第1層掘り下げ、北西トレンチ掘り下げ。

8月10日 南西トレンチ掘り下げ。

8月12日 現地検討会。埋め戻し。

⑧ 基本層序・遺物

北東トレンチ

層名	層相	標高 (m)	遺物	堆積時期
現代盛土		14.3～17.8m		昭和40年代
第1層	黄褐色粘土(2～4cmの角礫含む)	～14.3m	なし	

北西トレンチ

層名	層相	標高 (m)	遺物	堆積時期
現代盛土		17.9～18.1m		昭和40年代
基盤層 (古江層)	しまったオリブ黒色粘土+岩盤	～17.9m	なし	第三紀 (約1300万年前)

南西トレンチ

層名	層相	標高 (m)	遺物	堆積時期
現代盛土		17.8～18.1m		昭和40年代
基盤層 (古江層)	しまったオリブ黒色粘土+岩盤	～17.8m	なし	第三紀 (約1300万年前)

⑨ 特記事項

調査の結果、北東トレンチ(工事計画地北東側)では、現地表下約3.5m下位まで現代盛土があり、その下位で黄褐色粘土層が検出されたが、黄褐色粘土層内の遺物は皆無であった。この結果、北東トレンチは、旧地形では丘陵の谷部に位置し、昭和44年に竣工した現学寮建造のための造成工事の際、大規模に埋め立てられていることが判明した。

一方、北西トレンチ・南西トレンチ(工事計画地西側)では、現地表面より約0.2～0.3m下位で基盤層(古江層)が検出された。基盤層上部が土壌化していないこと、周辺地形も明らかに改変を受けていること、ボーリングデータなどから総合的に判断して開発工事予定範囲の北東の一部を除く大部分は、昭和44年に竣工した現学寮建造のための造成工事の際、旧地形の丘陵部分が平坦に削平を受けたものであることが明確となった。

工事予定地の大部分が削平を受けていること、北東トレンチの黄褐色土層からも遺物が皆無で

あったことから、今回の開発工事予定地内に埋蔵文化財が存在する可能性は極めて低く、「慎重工事」によって対応することに決定した。



図2 試掘調査位置図 (1/20,000)

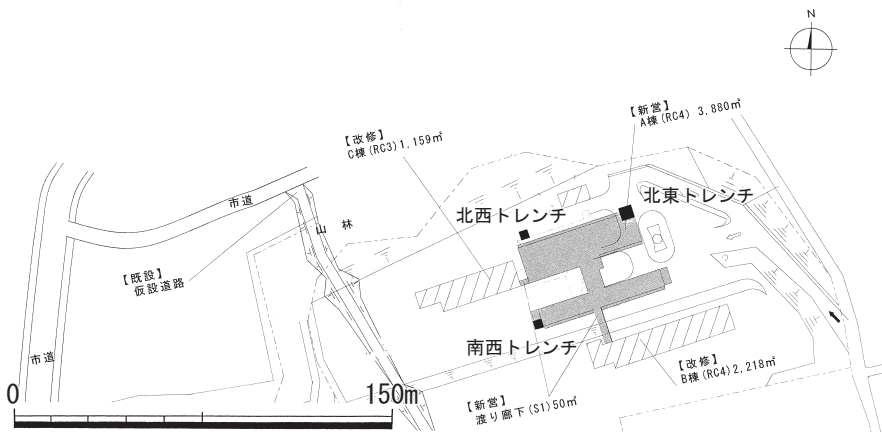


図3 試掘調査トレンチ位置図 (1/3,000)

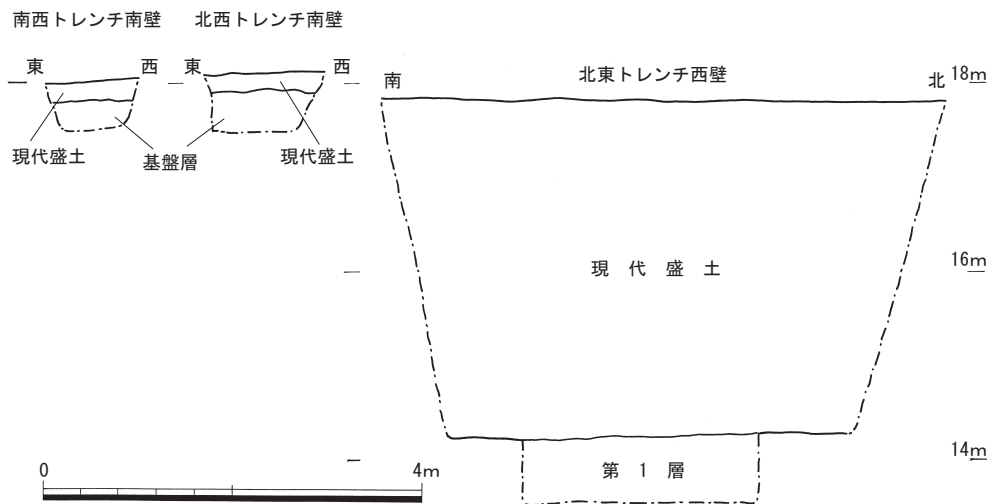


図4 試掘調査トレンチ断面図 (1/80)

(2) 工事立会

松江キャンパス法文学部棟南側の野外照明設置工事に際し、工事範囲が狭小で、深度も近現代盛土の範囲内に留まり、地下の埋蔵文化財に影響がないことから、工事立会で対応した。

平成23年2月22日、立会した結果、いずれも近現代盛土の範囲内に留まる工事であったことから、埋蔵文化財への影響がないことを確認した。

(3) 島根大学構内遺跡第14・15・16・17・18次発掘調査の整理・研究

上記調査のほか、平成17年度実施の島根大学構内遺跡第14次調査（ボーダフォン株式会社携帯電話アンテナ設置工事に伴う発掘調査）、平成18年度実施の同遺跡第15次調査、平成19年度実施の同遺跡第16次調査、平成20年度実施の同遺跡第17次調査、平成21年度実施の同遺跡第18次調査などの出土遺物の実測・トレース、遺構図面トレース、出土材化石のプレパラート標本化といった室内整理作業を進めた。このうち、島根大学構内遺跡第14次調査の整理・分析が完了し、下記の通り、調査研究報告書として刊行した。

(4) 島根大学埋蔵文化財調査研究報告書の刊行

下記の調査研究報告書を刊行し、全国の関係諸機関に配布すると同時に、インターネットでもPDFによって配信した。

- ・『島根大学構内遺跡第14次調査(橋縄手地区2)』島根大学埋蔵文化財調査研究報告第9冊、2010年11月

7 島根大学旧奥谷宿舎（サテライトミュージアム）の活用

（1）島根大学旧奥谷宿舎（サテライトミュージアム）の活用状況

島根大学旧奥谷宿舎（サテライトミュージアム）は、1924（大正13）年11月竣工の旧制松江高等学校外国人教師（独語教師）宿舎で、国登録有形文化財にも登録されている。平成21年10月に修復工事を終え、サテライトミュージアムとしてオープンした。

開館日時は、土・日・祝休日の午前10時～午後5時を原則としている。学芸員資格取得を目指している島根大学学生を雇用し、実践教育も兼ねながら開閉館、来館者対応などの業務にあたらせた。

平成22年度も引き続き、1階常設展示室では、「写真が語る島根大学の歴史と旧奥谷宿舎」を開催したほか、1・2階多目的室でミュージアムによる企画展示なども行った。

この他、大学メセナの一環として、学内外団体との共催による様々なイベント（作品展・ミニ教室など）を開催し、一過性で終わらない持続的に集客しうる博物館経営の実践に努めた。大学が所有する歴史的建造物を活用した、こうした継続活動を通じて、市民・観光客に伝統ある島根大学の歴史を知ってもらうとともに、長期的には地域の活性化にも貢献していくことをねらいとしている。

活用状況は、下記の通り。島根大学ミュージアム主催催し物の詳細や入館者数は、「Ⅱ-3 標本資料類などに関わる教育、普及啓発」を参照のこと。

① 展示活動

- 平成21年10月24日（土）～開催中 「写真が語る島根大学の歴史と旧奥谷宿舎」(常設展示)
- 平成22年5月2日（日） 作品展・ワークショップ「幼子を包む空間～シュタイナー教育の現場より・季節のテーブルを中心に」(島根シュタイナーの会主催)
- 平成22年5月20日（木）～24日（月） アート展示「のび て ちぢむ 時間 のこと」(学外アート団体主催)
- 平成22年5月28日（金）～30日（日） 『「赤山講話」発祥の地 バークレー・F・バックストン写真展」(赤山バックストン記念会主催)
- 平成22年6月13日（日） 作品展・ワークショップ「シュタイナー教育の現場より・私の手のはたらき～生活科」(島根シュタイナーの会主催)
- 平成22年6月23日（水）～30日（水） 写真展「水無月展」(島根大学写真部主催)
- 平成22年7月16日（金） 詩・写真など作品展「心」(個人主催)
- 平成22年7月17日（土）～25日（日） 洋画作品展「池尻都作品展」(個人主催)
- 平成22年8月1日（日） 作品展・ワークショップ「シュタイナー教育の現場より・絵画」(島根シュタイナーの会主催)
- 平成22年11月6日（土）～7日（日） 水彩画・油彩画・写真展示と絵画教室「古代出雲の里松江“秋の色”」(水彩クラブA・T主催)
- 平成22年11月12日（金）～14日（日） 写真展「心」(個人主催)
- 平成22年12月3日（金）～日（日） 写真展・絵画展「心」(個人主催)
- 平成22年12月11日（土）～2日（日） 水彩画・油彩画・写真展示と絵画教室「メリークリスマス！」(水彩クラブA・T 主催)
- 平成23年1月15日（土）～2月6日（日） 島根大学法文学部言語文化学科芸術学演習成果発表「七色八雲 百二十年の響鳴」(島根大学法文学部言語文化学科・伊集院研究室主催)
- 平成23年2月10日（木）～2月13日（日） 写真展「心」(個人主催)
- 平成23年3月19日（土）～3月21日（月） 「3月－3回生の美術展“マーチ”」(島根大学教育学部美術教育専攻学生グループ主催)
- 平成23年3月26日（土）～27日（日） 写真展「心」(個人主催)

② ミニ教室など

平成22年6月5日（土） まつえ市民大学・芸術文化カレッジ・美術コース「島根大学ミュージア

ム・鳥根大学旧奥谷宿舎見学)(松江市・松江市教育委員会・まつえ市民大学運営委員会主催)
 平成22年6月9日(水)「水彩画ワークショップ」(水彩クラブA・T主催)
 平成22年9月4日(土)「読書会」(鳥根大学ラフカディオ・ハーン研究会主催)
 平成22年9月8日(水)「水彩画ワークショップ」(水彩クラブA・T主催)
 平成22年11月20日(土) 講演会「奥谷の洋館に住んだ人たちと地域住民との交流」(松江市観光ボランティアガイドの会主催)
 平成23年2月19日(土)・26日(土) 子供教室・人形劇(個人主催)
 平成23年3月5日(土)「読書会」(鳥根大学ラフカディオ・ハーン研究会主催)
 平成23年3月12日(土) 水墨画教室(個人主催)

③授業での活用

平成22年9月18日(土) 博物館概論(鳥根大学法文学部学生向け)
 平成22年10月17日(土) 博物館実習に係る事前及び事後の指導(鳥根大学法文学部学生向け)
 平成22年11月5日(金) 島大ミュージアム学(鳥根大学ミュージアム開講)
 平成22年12月15日(水) 博物館実習に係る事前及び事後の指導(鳥根大学生物資源科学部学生向け)

④裏庭を活用した園芸活動(生物資源科学部主催「みのりの小道」)

平成22年6月30日(水) 裏庭でクロタラリアを播種。



夜遅くまで展示準備する学生達～鳥根大学写真部主催「水無月展」の準備風景(22.6.22)



鳥根大学生物資源科学部による宿舎裏庭での園芸活動「みのりの小道」(22.6.30)



鳥根大学法文学部言語文化学科芸術学演習成果発表「七色八雲 百二十年の響鳴」(23.1.15～2.6)



鳥根大学教育学部美術教育専攻学生グループ主催「3月ー3回生の美術展“マーチ”」(23.3.19～21)

(2) 鳥根大学旧奥谷宿舎見学者アンケートの結果

ご自身の思い出に関する感想

- ・私は、出身は隠岐です。2才年上の兄が、「浜高時代、よく独語友人の4・5人で、独語の先生夫妻がいらしたこの宿舎にお邪魔し、おいしいコーヒーを頂いた」という話をしてくださいました。兄は、浜高卒業後、東大独文科を出て、満州重工業に就職(?)、満州で召集になり、す

ぐに戦死しました。広い松江で兄の出入りした宿舎はここ一軒のみで懐かしく、親戚の方につれて来て頂きました。之からまた、ちょいちょい訪問させて頂きます。

- ・1947～1950年の3年間、近所に下宿していました。しばしば、この外人宿舎(当時、島根大学・原弘二郎先生居住)を訪問し、玄関脇の部屋に上がり込んだものです。
- ・昭和24年頃、近所の北堀小に在学中でした。
- ・昔、住んでいました。懐かしさでいっぱいです。これからも大切に保存して下さい。
- ・高校時代、見ていた建物が、今こうしてよみがえっていることに感動するとともに、松江の高等学校の遍歴を知り、松江のさらなる魅力を知るきっかけとなりました。
- ・前から気になる場所でした。空き家になっていた時間が長く、何故だろうという気持でした。外観がきれいになり、ステキな感じでしたから一度寄ってみたいと思いました。
- ・先生がいらっしゃる時から宿舎は知っておりましたが、一般公開されるようになったので見せてもらいにきました。

建物に関する感想

- ・たまたま開いていて、見学させて頂きました。散策の休憩所にもなりました。維持管理は大変だと思いますが、とても良い所なので頑張ってください。
- ・洋の造りが素敵でした。階段や照明も良かった。また来たいと思います。
- ・近所に住んでおり、以前から気になる建物でした。昔の洋館、とても素敵です。
- ・見学の機会があって良かった。2階の天井が低いこと、部屋が狭いのに驚いた。
- ・素敵な造りの建物で、子供の頃から気になっていました。なかに入れるようになりとても嬉しく思います。
- ・ステキにリフォームされていて、心地良かったです。すごくお洒落です。
- ・以前のさびれた風情も捨てがたかったですが、本当に綺麗で立派になったと思いました。階段の手すり、天井、窓など当時のままに残されており感心しました。今度は何かイベントのある時にお邪魔したいです。

展示に関する感想

- ・パネルから、島根大学や松江の変遷をよく窺い知ることができました。家具調度品など、生活が見えるものがあると、生活されていた頃の実感ができるかなと思いました。
- ・島根大学に古くから外国人教師がいたことを知ることができ良かった。写真が貴重なものばかりで良かった。これからも頑張ってください。
- ・とてもきれいで、静かな所に建っている様子に感動しました。大学の歴史を知ると同時に、松江の歴史も知ることができ良かったです。
- ・以前、テレビで拝見させて頂いた時から、お邪魔させて頂きたいと思っていました。幅広い国際交流の場があったことを知り、大変勉強になりました。
- ・大正時代の建物の様子が見学できて良かった。明治時代の町の写真も展示してあり、古い時代の松江が見られて良かった。
- ・島根大学の歴史がわかり、懐かしさと若い気概を蘇らせることができたかな?! 大変良い施設(取り組み)だと思います。

その他運営に関する提案など

- ・初めて来ました。色々な催し物を企画されると良いと思います。大学職員です。
- ・松江高校・島根師範学校・島根大学関係についての質問欄を設けてもらえると良いです。
- ・とても落ち着けるので、カフェの機能?もあればいいな。ここでお茶したいです。
- ・遠方から初めて訪れる場合、場所が分かりにくいので、途中で道案内表示があると良いです。

8 ミュージアム教員の活動記録

會下和宏 EGE Kazuhiro 准教授

著書・論文など

- ・會下和宏 2010.5 「各都道府県の動向・島根県」『日本考古学年報』No.61
- ・會下和宏 2010.10 「海況変遷と遺跡群③ 宍道湖・中海」『縄文時代の考古学4・人と動物の関わりあい』同成社
- ・會下和宏 2010.10 「弥生墳墓の研究史」『博古研究』第40号
- ・會下和宏 2010.11 『島根大学構内遺跡第14次調査（橋繩手地区3）・島根大学埋蔵文化財調査研究報告第9冊』島根大学ミュージアム

社会的活動（島根大学ミュージアム主催のものは省略）

- ・講師「島根大学旧奥谷宿舎を活用した地域まるごとミュージアム化」『松江市中心市街地活性化協議会勉強会』松江市中心市街地活性化協議会主催 2010.4.15
- ・講師「第3回島根大学ミュージアム・島根大学旧奥谷宿舎見学」『まつえ市民大学・芸術文化カレッジ・美術コース』松江市・松江市教育委員会・まつえ市民大学運営委員会主催 2010.6.5
- ・シンポジウム講演『中国・四国地区の大学博物館～いま大学の博物館が求められているもの～』山口大学埋蔵文化財資料館・梅光学院大学博物館主催 2010.11.27

担当授業

【学芸員資格取得に関する科目（ミュージアム開講）】

- ・「博物館概論」(島根大学法文学部学生向け)
- ・「博物館学資料論」(島根大学法文学部学生向け)
- ・「博物館学情報論」(島根大学法文学部学生向け)
- ・「博物館学経営論」(島根大学法文学部学生向け)
- ・「博物館学各論Ⅰ」(島根大学総合理工学部・生物資源科学部学生向け、分担)
- ・「博物館学各論Ⅱ」(島根大学総合理工学部・生物資源科学部学生向け)
- ・「考古学実習Ⅲ」(島根大学法文学部学生向け)
- ・「博物館実習」(島根大学法文学部学生向け)
- ・「博物館実習」(島根大学総合理工学部学生向け)
- ・「博物館実習に係る事前及び事後の指導」(島根大学法文学部学生向け)
- ・「博物館実習に係る事前及び事後の指導」(島根大学総合理工学部学生向け)
- ・「博物館実習に係る事前及び事後の指導」(島根大学生物資源科学部学生向け) に一部協力。

【島根大学共通教養科目】

- ・「島大ミュージアム学」(ミュージアム開講、分担、公開授業)
- ・「フィールドで学ぶ『斐伊川百科』」(法文学部開講、分担)
- ・「島根学～島根の医学・医療と文化の歩み～」(医学部開講、分担、公開授業)

島根大学ミュージアム年報

平成 22 年 度

発 行 2011年 4 月20日

発行者 島根大学ミュージアム

〒690-8504 松江市西川津町1060

電話 (0852) 32-6496

印 刷 株式会社 報 光 社
